

公共事業再評価調査

整理番号 H24 - 17

担当部課名	県土整備部 都市計画課	電話番号	0 1 7 - 7 3 4 - 9 6 8 2
		E - MAIL	toshikei @pref.aomori.lg.jp

再評価実施要件	未着工	長期継続 (10 年)	再評価後 (年)	その他 ()
---------	-----	---------------	------------	---------

1 事業概要

事業種別	街路事業		事業主体	県 市町村 その他 ()			
事業名	道路改築事業		地区名等	3・3・8号 白銀市川環状線 (中居林)	市町村名	八戸市	
事業方法	国庫補助	交付金	県単独	財源・負担区分	国 65 %	県 20 % 市町村 15 % その他 %	
採択年度	平成 15 年度 (用地着手 平成 17 年度 / 工事着手 平成 24 年度)						
終了予定年度	平成 25 年度 (平成 23 年 3 月工期変更 当初計画時 平成 22 年度)						
事業目的	<p>本路線は、八戸市の外環状を形成し、重要港湾八戸港、東北縦貫自動車道八戸線 I C、東北新幹線八戸駅、桔梗野工業団地を經由して臨海工業地帯に至る重要な幹線道路である。</p> <p>また当該工区周辺は、市民病院のほか、土地区画整理事業による新興住宅地として急速に発展しており、これらに伴う交通量の増加により交通混雑が著しい状況となっている。</p> <p>このため、本路線を整備し、市内中心部を通過する交通を分散させることにより、都市内交通の円滑化及び交通・物流拠点へのアクセスが向上され、八戸市の産業の活性化や市民生活の利便性向上を図るものである。</p>						
主な内容	区 分		当初計画時	再評価時	増 減		
	計画延長		602 m	602 m	0 m		
	計画幅員		25 m	25 m	0 m		
	改良工		602 m	602 m	0 m		
	舗装工		602 m	602 m	0 m		
事業計画については、当初計画と比較して変化はない。							
事業費	当初計画時総事業費 4,200 百万円 (単位 : 百万円)						
		~ 21年度	22年度	23年度	24年度	小 計	25年度~ 合 計
	計 画	1,072	409	580	222	2,283	155 2,438
	(うち用地費)	(950)	(386)	(554)	(3)	(1,893)	(3) (1,896)
23年3月変更							
実 績	1,072	407	305	354	2,138	300 2,438	
(うち用地費)	(951)	(389)	(291)	(265)	(1,896)	(0) (1,896)	

2 評価指標及び項目別評価

(1) 事業の進捗状況

(A) · B · C

事業の進捗状況	事業費割合		計画全体に対する進捗	年次計画に対する進捗
	(うち用地費)		87.7 % [/]	93.6 % [/]
			(100 %) [/]	(100.2 %) [/]
	主要工程 毎割合 (事業費)	改良工 (139 百万円)		34.7 %
舗装工 (208 百万円)			0 %	0 %
(百万円)			%	%
説 明	用地・補償費に関しては、平成23年度末現在の進捗率は86%で、平成24年度に完了する見込みである。工事に関しては、平成24年度着手予定で、平成25年度完成見込みである。			
問題点・ 解決見込み	平成15年度から事業着手し整備を進めてきたが、用地買収の難航により不測の日数を要し、当初の事業期間(平成22年度)での完成が難しいことから、事業期間を3年間延伸し平成25年度までとした。事業に対する反対意見はないので、用地単価及び補償内容等を十分説明し、用地買収を鋭意進める。			
事業効果 発現状況	(部分供用なし)			

(2) 社会経済情勢の変化

(A) ・ B ・ C

社会的評価	全国・本県における評価	<p>【全国の評価】</p> <p>平成22年度に創設された「社会資本整備総合交付金」は、国土交通省所管の地方公共団体向け個別補助金を一つの交付金に原則一括し、地方公共団体にとって自由度が高く、創意工夫を生かせる総合的な交付金である。さらに平成23年度より「社会資本整備総合交付金」の一部について、「地域自主戦略交付金」に移行するとともに、同交付金の抜本的見直しにより、地方の自由度・使い勝手の更なる向上が図れる。</p> <p>このことから、街路事業は選択と集中の方針の基、地域の実情に即した事業の的確かつ効率的な実施を図ることが必要とされている。</p>	<p>【県内の評価】</p> <p>街路事業は、安全・安心な社会の確立、中心市街地等における都市の活力の再生・地域の活性化等を図るため、都市内交通、及び広域交通の道路ネットワークを形成するものであるが、本県の街路整備率は44%であり、国平均59%、東北六県平均54%に比べ低い状況にあるため、街路整備に対する要望は非常に強い。 (都市計画年報：H22.3.31現在)</p>
	当地区における評価	3・3・8号白銀市川環状線の整備促進について、八戸市から重点要望されている。	
必要性	<p>都市計画決定されている道路（主要地方道八戸環状線）である。</p> <p>重要港湾八戸港、八戸市民病院、東北縦貫自動車道八戸線IC、東北新幹線八戸駅、臨海工業地帯等とアクセスする市の大動脈といえる路線である。</p> <p>国道や主要な県道と連絡し、市内中心部を通過する交通を分散させることにより、交通混雑緩和が図られる。</p> <p>緊急輸送道路に位置づけられている道路である。</p> <p>八戸市の放射環状型交通体系の骨格をなす外環状線である。</p> <p>以上のことから、早期に整備する必要がある。</p>		(a) . b
適時性	当該工区は、道路事業工区（糠塚工区：H25供用予定）と接続しており、良好な交通体系を形成することから、早期完成を強く要望されている。		(a) . b
地元の推進体制等	事業に対する反対意見もなく、地権者の協力と地域住民の理解を得て、整備促進に努めている。		(a) . b
効率性	当該工区が供用することにより、八戸市民病院へのアクセスが向上され、安心な生活が確保される。都市内交通の円滑化及び東北縦貫自動車道八戸線IC、東北新幹線八戸駅、臨海工業地帯などの交通拠点や物流拠点へのアクセスが向上され、八戸市の産業の活性化や市民生活の利便性向上が図られる。		

(3) 費用対効果分析の要因変化

(A) ・ B ・ C

区分	主な項目	当初計画時	再評価時	増減
費用項目 (C)	(1) 事業費	百万円	2,491 百万円	2,491 百万円
	(2) 維持管理費	百万円	48 百万円	48 百万円
	(3)	百万円	百万円	0 百万円
	(4)	百万円	百万円	0 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総費用	百万円	2,539 百万円	2,539 百万円
便益項目 (B)	(1) 走行時間短縮便益	百万円	16,768 百万円	16,768 百万円
	(2) 走行経費減少便益	百万円	802 百万円	802 百万円
	(3) 交通事故減少便益	百万円	652 百万円	652 百万円
	(4) 冬期便益	百万円	559 百万円	559 百万円
	(5)	百万円	百万円	0 百万円
	総便益(B)	百万円	18,781 百万円	18,781 百万円
	地域修正係数()		1.461	
	修正総便益(B')	百万円	27,439 百万円	百万円
費用便益比	費用便益比(B / C)		7.40	
	修正費用便益比(B' / C)		10.81	
費用対効果分析 (B / C)	<p>【費用対効果分析手法】（分析手法、根拠マニュアル等）</p> <p>費用便益分析マニュアル（H20.11 国土交通省道路局 都市・地域整備局）</p> <p>道路事業における県独自の費用便益分析実施要綱（H22.3 県土整備部道路課）</p>			(a) . b
計画時との比較	<p>【計画時との比較における要因変化】</p> <p>事業着手時点において県単事業として着手したことから費用対効果分析は実施していない。</p> <p>用地・補償費の精査により全体事業費が1,762百万円の減額となった。</p> <p>冬期便益、地域修正係数の新たな導入（H22.3月～）「南部地方生活圏1.461」</p>			a . b

(4) コスト縮減・代替案の検討状況		(A) · B · C
コスト縮減	【コスト縮減の検討状況】 路盤材・舗装材に再生材を使用し経費の縮減を図っている。 建設発生土を盛土材料に利用し経費縮減を図っている。 排水構造物、小規模構造物については、極力コンクリート二次製品を使用し工期の短縮及び経費の削減を図っている。	a · b
代替案	【代替案の検討状況】 本路線は、都市計画決定済ルートであることから、代替案はなし。	a · b

(5) 評価に当たり特に考慮すべき点		(A) · B · C
住民ニーズの把握状況	【住民ニーズの把握方法】 事業説明会や用地交渉の際に、聞き取りにより確認している。 【住民ニーズ・意見】 地域住民からは、市民病院へのアクセス向上などから早期完成を望まれている。 八戸市が毎年当該工区及び未着手工区を含む3・3・8号白銀市川環状線（県道：八戸環状線）全線の整備促進を要望している。	a · b
環境影響への配慮	【開発事業等における環境配慮指針への対応】 (1)対応状況 配慮している 配慮していない (2)区分 農林地等の緑地や植生の改変 地形や地盤の改変 水系や水辺の変更 海域環境の変更 敷地整備段階での重機の使用 土砂等の搬出・搬入 廃棄物処理等 道路(車歩道)、雨水排水路の設置 基礎や地下建造物の建設 低層建築物の建設 高層建築物・大規模施設等の建設に係る環境配慮 高架構造物の建設 海底・海中建造物の設置や建設 (3)特に配慮する対応内容 切土または盛土により植生等を改変する場合は、張芝等により緑化を行い代替処置を講じる。 産業廃棄物は再資源化施設に搬入し、リサイクルに努める。 地下埋設物の調査を実施し、ライフラインの破損防止に努める。 低騒音、低振動及び排出ガス対策型仕様の建設機械を使用する。	a · b
地域の立地特性	(地域指定) 都市計画区域 (災害の記録) なし (危険箇所情報) なし	

3 対応方針(事業実施主体案)

総合評価	継続	計画変更	中止	休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
評価理由	すべての項目が「A」評価であり、地元の要望も強く、完成により都市内交通の円滑化、工業団地、物流拠点及び交通拠点へのアクセス強化が図られ、八戸市の産業の活性化や市民生活の利便性向上につながるものと期待されていることから、早期の事業効果発現を図る必要がある。 以上のことから、対策方針を「継続」とした。			
備考				

4 公共事業再評価等審議委員会意見

委員会意見	対応方針(案)どおり	対応方針(案)を修正すべき		
委員会評価	継続	計画変更	中止	休止(林政課及び漁港漁場整備課所管事業に限る)
附帯意見	(附帯意見がある場合に記載)			
評価理由	(委員会意見が「対応方針(案)を修正すべき」の場合に記載)			